



若手技術者に期待すること

中越合金鋳工株式会社 製造部；部長 朽木智大

1. 会社紹介

私たちの会社は、眼前に雄大な立山連峰をのぞむ富山県の立山町に本社・工場を構え、銅合金鋳物の製造・販売を行っています。お客様の様々なニーズに応えるオリジナル材の材料開発から、原材料の溶解、鋳造、押出、鍛造、熱処理、機械加工完成品までの一貫製造ラインを構築した、銅合金業界でも数少ない会社です。銅合金は耐摩耗性、耐食性に優れ、熱及び電気伝導性が良好といった特長を活かし、1949年の創業以来、自動車・ベアリング・油圧建機・鉄鋼・造船・一般産業機械・家電・水栓といった幅広い分野のお客様にご愛顧頂いています。

2. 若手技術者に期待すること

さて、本記事の筆者である私自身は、技術部門での実務経験がなく、残念ながら技術者としての経験談を皆様に紹介することはできませんので、私たちの会社が技術者、特に若手技術者に期待していることについて、僭越ながら紹介させていただきます。

(1) 一番を目指す

技術者としての神髄は、やはりその分野における深奥な知識、能力だと思います。若手技術者が知識豊富な将来を担う立派な技術者へと成長する過程において、日々自ら勉強に励むこと無しにそれを成し遂げることはできないでしょう。私たちの会社では、そんな若手技術者への動機付けとして、どんな些細なことでも構わないので、とにかく一番を目指して欲しいと伝えています。これは、技術者に〇〇については自分が一番詳しく、他の誰にも負けないという得意分野を身に付けてもらうことで、〇〇のことなら彼に聞けばすぐに解決できるというように、上司や製造現場はもちろん、お客様からも信頼される技術者としての実感を得て欲しいからです。実際に、私が若手技術者にそういった相談を持ちかけた場合には、とても澁刺で誇らしげに答えてくれるのが印象的です。一番の程度についても、最初から高いハードルを目指そ

うとしている訳ではありません。まずは、自分のチームの中で一番を目指そう、次は会社の中で一番、その次は業界で一番というように、段階的に上を目指せばよいと言っています。自ら目標を定め、高みを目指すことができるようになれば、技術者としての未来は明るいと言っています。

(2) 人付き合いを大切に

鋳物造りにおいて、品質不良の撲滅は長きに渡っての課題です。この品質不良の多くは、製造現場で発生しています。一方で、その不良の原因は上流の設計上、技術上の問題である場合も多々あります。この場合、品質保証部、技術部、製造部が力を合わせて問題解決に当たるわけですが、特に技術者には、実際に問題が発生している製造現場に足繁く通い、その現場の方との人付き合いを大切にしてくださいと伝えています。製造現場には気難しい現場責任者や、無口な職人気質のベテランもいたりするものです。そんなとき、現場の方の協力が得られず、現場で起こっている真実を正確に聞き出すことができなければ、決して問題解決に辿り着くことはできません。技術者と言えども、研究室・実験室に籠りがちにならず、人付き合いを大切に、何でも話し合える風通しのよい人間関係を築いて欲しいのです。現場の休憩所で皆と雑談しながら一緒にコーヒーを飲んでいる、そんな技術者が理想です。

(3) 説明が上手い

私たちの会社では、入社間もない若手技術スタッフから、技術課長までを対象に、年2回「技術発表会」と称して現在自分が取り組んでいるテーマについて、経営層に対して発表する場を設けています。この発表会は経営層への業務報告というよりも、銘銘になりがちな技術部門の各テーマのベクトル合わせと、技術者としての説明力を磨く場と位置付けています。どれだけ知識が優れていても、説明した内容が人に伝わらなければその知識は活かせません。また、説明が上手い技術者は往往にして試験・研究の計画、実行、まとめの段取りも上手なものです。きっと自身の頭の中をしっかりと整理しているので、先を見ることができ、行動も説明も上手なのでしょう。説明が上手くなって欲しいという期待は、単に人に伝える能力を高めて欲しいだけでなく、頭の中を整理する能力も自ずと高まることを狙っています。

今回紹介させていただいた若手技術者への期待は、私たちの会社にしか通用しない部分であったり、釈迦に説法であったりしたかもしれませんが、企業への就職を志す学生の皆さんにとって、企業が求める技術者像の一例として僅かでも参考になれば幸いです。

(2016年7月8日受理)[doi:10.2320/materia.55.484]
(連絡先：〒930-0298 富山県中新川郡立山町西芦原新1-1)